喜多流大島能楽堂（福山市光南町）が定期公演を続けて50周年を迎え、今年締めくくりの公演で30日、喜多流シテ方で大島家４代目大島政允さん（66）が、非常に難しいとされる〝老女物〟の「卒都婆小町」を初公演。節目にふさわしい大曲で、能楽ファンら約380人を魅了した。

喜多流大島能楽堂（福山）定期公演

50周年 大曲で彩る

今年締めくくりの定期公演で、「卒都婆小町」を熱演する大島政允さん（中央）

４代目政允さん 卒都婆小町を熱演

年老いた小野小町が主人公。朽ちた卒都婆に腰掛けたことを諭そうとした僧侶を論破したり、小町に恋した少将の霊に取りつかれ狂乱するなど変化の多い筋立て。

衰えても絶世の美女として名をはせたころをしのばせる妖艶美も見どころ。喜多流では六十歳以上でなければ許されないとされる。

大島さんは約一時間半、僧侶のワキ、ワキツレ方らと熱演。満席の会場からは盛大な拍手が送られた。

幼いころ能を学んでいた河本八重子さん（八三）＝世羅町＝は「しっとりとした演技で感激した。昔を思い出し、また能鑑賞を楽しんでみたくなりました」。

大島さんは「体力、気力の充実が求められる大曲。一流の共演者と演じることができ、力を振り絞った」と充実した表情を見せた。

喜多流シテ方で人間国宝友枝昭世さんの舞囃子や歌人馬場あき子さんの講演もあった。

大島能楽堂は、地方では珍しく、備後で能文化を継承。定期公演は、政允さんの父で三代目の故久見氏が一九五八年に始め、現在年四回で、今回が二百十五回目。（西崎哲也）

08/12/01 山陽新聞